

7. 閉会

片田 敏孝（群馬大学大学院 教授）

二日間に渡り、熱心にいろいろとご議論して頂きまして、ありがとうございました。皆さん。黒潮町に来られて、「商魂たくましいな」と思いませんか。「商魂たくましい」というよりは「決して負けてない」し、「置かれた状況、条件の中でどう生きるか」、「どう前向きに生きるか」ということだと思います。たまたま津波の話をする「ここが一番酷い」という話なだけであって、土砂災害や洪水など災害はいろいろあります。群馬県も浅間山を抱えておりまして、



片田 敏孝教授

あれが噴火したら、僕らは一番の被災者になります。自然災害という面では、地域に様々な災害もあるわけですし、またそれぞれの子どもが大人になり、そして生涯を終えるまでには、生きていく上でいろいろとあるんですね。特に鶴見橋の子どもたちは、今まさにそういう状況の中で生き抜いている。そういう中であっても、どうたくましく前を向いて、歩いていくのか、生きていくのか。我々自身もそうです。いろいろな側面で、我々は「与えられた条件の中で客観的にリスクを自分で評価し、その中で自分で正確な道を考える」、そして「明るく一步一步どう前に進んで生きていくのかを考える」。そういう中で、たまたま黒潮町であれば、津波という事象に対して皆が同じ方向を向いて動いていける。

僕らが目指している防災教育というのは、何度も言いましたけれども、単に“逃げろ逃げろ教育”をやっているわけではないということだけは、もう間違いなく皆さんの共通認識としてでき上がってきたんだろうと思います。ただ、正直、まだ暗中模索ですよ。子どもたちに、次から次へとあれやらせ、これやらせ、とメニューの連続でいく。あれもやらせました、これもやらせましたが防災教育ではない。それももちろんわかっていることです。でも、「具体的にコミュニケーションとしてどうすればいいのか」、「どういうステップを踏んで子どもたちを育てていくのか」ということに関しては、皆が皆、未知の領域に入ってきたと思います。正直私にとってもそうです。このプロジェクトは、文科省からご支援をいただいております、昨日も皆さんの議論を担当者が見学に来ていました。彼と話をしていたら、「改めて防災教育を凄く小さく捉え過ぎていた」と仰っていました。

今回で3回実施させていただきました。それなりの成果も上がりつつあるとは思っていますが、まだ僕らがたどり着いたところは、「防災教育が目指すものとは何なのか」、そして「その効果の可能性」についてコンセンサスが得られてきたというところだと思います。決して、“逃げろ逃げろ教育”だけではなく、「主体的にどう生きるか」ということに対して、子どもたちが変わっていける。そして、小木の事例を見ても、子どもたちに「勉強しろ、勉強しろ」と連呼したわけじゃないですよ。子どもたちが自発的に伸びてきた。そんな子どもたちを育むことができたのも防災教育の成果かなと。防災教育の効果、その広がり可能性はわかってきた。そして、やりようによって、それは明らかに打ち立てることができるものだという事もわかってきた。さらに、そこにあたって障害を乗り越えた事例も各地から色々ご報告を頂き、その中から参考になること、良い模範となるような授業もできてきた。そして、“命の教育”が重要だという認識のもとで、「命を扱いながら心を揺さぶる」ことについて、肯定的な意見から「いつもこんな厳しい問いかけばかりで防災教育は成り立たない」と意見も、いろいろな気付きが

あって、今この場で共通の認識を持つことができているんだと思います。この先はこの共通認識のもとで、各地で事例を増やして頂かないといけないような気がしているんですね。今回、太田先生の授業を見て頂いたり、前は、私がシンサイミライ学校でやった授業を見て頂いたり、いくつか事例はできました。ここから先は、それぞれの学校でそれぞれの先生が、ここまで学んだもの、参考にするべきものを使って、実践して頂き、その結果を持ち寄って、議論させていただきたい。「こんな成功をした」、「こういうアプローチで子どもたちはこう変わった」という事例をいろいろと持ち寄って頂けるといいなと思っています。そういう面では、今回、大阪から木下先生、川島先生に来て頂きましたが、他にも全国にはまだそういうことをやっておられる方もいらっしゃると思うんですね。そういう方々にも入って頂いて、議論を深めていきたいなとも思います。

何れにしても、この年末の本当にお忙しい中、これだけの多くの方々に来て頂きましたこと、心より感謝申し上げます。そして、何よりも黒潮町の皆さん、先生方、教育委員会の皆さん、本当にご協力ご支援を頂きましてありがとうございます。お陰様でまた一歩、前に進むことができたかなと思っています。また、何らかの形で次年度、皆さんにお声掛けを致しますので、それまで今日、今回持ち帰ったものを使って、様々な実践をしていただきたいと思います。そして、ぜひ次の集まりに報告して頂けるようにして頂きたいなと思います。本当にありがとうございました。また来年度もよろしくお願い致します。

